

(別紙4) (西暦) 2022 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0891900011		
法人名	社会福祉法人 若竹会		
事業所名	牛久コスモス園		
所在地	茨城県牛久市小坂町3388-1		
自己評価作成日	2022年6月1日	評価結果市町村受理日	2023年2月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0891900011-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県水戸市酒門町4637-2		
訪問調査日	2022年12月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様が明るく楽しく自分らしく生活が送れるように、家庭的な雰囲気を大切に、お一人おひとりに寄り添い支援しています。
 法人グループ内の医療機関の訪問診療の体制や急変時に院内救急車で対応体制等があります。また看護師が健康管理や些細な体調の変化を早期発見し、対応することができる為、ご利用者様とご家族様に安心して生活して頂いています。
 日頃より地域の方々との交流があり、地域の一人として関係性や連携を大切に活動しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

団地の入り口にあり、系列の介護付き有料老人ホーム・小規模多機能ホームが併設されている。自治会に加入して地域交流に取り組み、事業所・認知症に理解を得ている。毎日、看護師による体調管理がされ、法人内医療機関の訪問診療・訪看とも24時間連携が可能で、体調変化時の対応がスムーズに取れることは家族・利用者にとって安心できる。新型コロナ感染予防対策マニュアル作成・必要物品整備・カウンテクニック・シュミレーション実施と、職員の体調管理・5S運動・清潔保持に努め、感染予防に取り組んでいる。***新型コロナウイルス感染症予防の観点から、訪問調査は通常より時間を短縮し、簡潔に実施。**

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を基にコスモス園独自の理念を作成を行った。理念は、ステーション内とホールに掲示し管理者、職員共に確認、周知できるようになっている。	法人理念の他に事業所理念と事業所介護理念があり、玄関とステーションに掲示して意識付けを図っている、管理者と職員は理念をミーティングや面談等で確認・共有し、実践に繋げている。チャレンジカードで職員個人・共同の目標に向けて実践し、半年毎の面談で評価を行っている。職員は利用者とのコミュニケーションと声掛けの重要性を感じている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設のある町内会の一員として、支援の会の会議や毎月の定期清掃に参加している。町内会のイベントや保育園との交流は、コロナ対策のため実施できていない。	自治会に加入して支援の会の会議や環境整備に参加している。地域住民や支援の会から相談があった時はアドバイスをしたり、系列の居宅介護支援事業所や関係機関に繋げている。区長・民生委員と情報交換を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、民生委員の方に認知症への理解や対応等の情報を提供している。また、支援の会の会議に参加し行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度開催し、ご家族代表、民生委員、市職員の方々に参加して頂き、報告、質問などの意見交換を行い、その後のサービス向上に努めている。現在は、コロナ禍の為、書面にて報告を行っている。	コロナ禍のため、現在は2ヶ月毎に、小規模多機能事業所と合同で書面報告としている。内容は事業予定・報告・利用者状況・小規模多機能・長期泊りサービス・安全のための報告・施設からの報告・地域、家族要望等。議事録は行政と運営推進委員に届けている。職員には回覧・会議等で報告し共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターに、電話や訪問等で事業所の空き状況などの情報提供している。市からの介護相談員の訪問時に意見交換を行っているが、コロナ禍の為、行えていない。	現在、介護相談員の訪問は中止となっている。担当課とは連絡を密にとり協力関係を築いている。子供110番の設置している。保育園との交流や中学生の体験学習は自粛している。社協の研修会やGH情報交換会、ケアマネ会に参加し情報交換をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を三ヶ月に一度開催し、現状確認と拘束を行わない為の取り組み等の話し合いを実施している。緊急やむを得ず行う場合には、必ずご家族に説明し、同意を得て行っている。	身体拘束等適正化のマニュアルと指針を作成し、身体拘束委員会を3ヶ月毎に開催し、現状確認や取り組み等を話し合い、利用者の安心・安全に向けたケアに努めている。委員会欠席の職員には回覧で共有している。やむを得ず一時的に拘束となる場合の書類は整備し、家族に説明して同意を得て、解除に向けた取り組みを記録に残している。安全上玄関は施錠しているが、外出傾向が見られたときは一緒に出掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	施設内でのミーティング等の時間を使い学ぶ機会を作っている。職員トイレに言葉の虐待等の用紙を掲示して、常に意識して対応できるように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、成年後見制度等について研修等で学んでいる。ご家族からの問い合わせにも他職種とも連携し対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は、管理者が重要事項説明書、契約書、その他書類についても十分説明を行っている。ご家族からの質問には、いつでも対応している。ご理解した上で、署名、捺印をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者は日常生活の中で、ご家族は面会時や電話連絡時に意見や要望を聞くようにしている。重要事項説明書には、施設と公的の苦情窓口を明記し説明している。頂いた意見・要望は、すぐに現場に伝え改善に取り組んでいる。	利用者からは会話の中から要望を汲み取っている。家族は面会時や電話連絡時に聞くようにしているが、感謝の言葉とコロナ収束を願う話が多い。毎月、個々に写真を添えて状況報告便りを郵送している。苦情受付窓口・第3者機関名を明示しているがそちらからの要望・苦情は無い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の各部署のスタッフミーティングや年2回管理者や主任等との面談を行い、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	運営に関する報告は行っている。日々の気づきは利用者の介護に対する提案が多く、すぐに検討し対応している。管理者・主任との面談で意見や提案を聞く機会を設けており、人員補充の要望が多い。個人目標・自己啓発目標を設定し、半年間の取り組み結果を人事考課で評価して、やりがいがある職場環境作りに努めている。個人の研修費と日数が設けられ、レベルに合わせた研修受講・資格取得(現在喀痰吸入受講中)の支援があり、受講後は研修報告書作成・伝達研修等で全職員に共有している。管理者・職員の関係は良好で、いつでも何でも話せるのでストレスや不満はないとの事。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度として、個人目標・自己啓発目標を各個人で決め半年間で取り組んでもらい、個々の努力や実績を面談での確認を行っている。職員に意見や提案を職場環境の改善等に生かしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修の発信や個人への提案などを行っている。法人で各個人の研修費・日数を設けている。新人職員には、必ず担当者が付き対応している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の介護施設全体の会議等での交流や情報交換を通じてサービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	少しでも安心してもらえるようできるだけ施設見学に来て頂き雰囲気を感じてもらい、面談にて意向や不安なことを確認し、安心してもらえるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	少しでも安心してもらえるようできるだけ施設見学に来て頂き雰囲気を感じてもらい、面談にてご家族とご本人との関係性や生活歴等、不安なこと、施設への要望等を確認し安心してもらえるよう関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時にご本人、ご家族の状況や不安なことを確認して、サービス内容を検討し、必要に応じて他のサービスの情報提供や法人内他施設等との連携を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、職員が一方向的に決めるのではなくご本人と相談して決めるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、面会時や連絡時、家族カンファレンス時にご本人のご様子や変化、支援内容などをお伝えし、ご家族との関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に会いたい、家に帰りたい等の要望があれば、ご家族にご連絡し、新型コロナ感染予防策でガラス越し面会などにご協力頂いている。	家族との面会はガラス越しで、1日2組まで実施している。オンライン面会も可能である。遠方の親族や知人と電話や手紙・はがきで連絡を取り合っている。利用者同士や職員が馴染みの関係となり、信頼関係が深まっている。併設の小規模多機能型居宅介護施設や有料老人ホーム利用者との交流は控えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の性格や相性を考え座席を気をつけている。認知症で孤立してしまいそうなご利用者には、職員が間に入り関わりを持っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて相談や支援に努めている。新たな事業所には、情報提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人との日常生活の会話などから思いやご希望を聞き取っている。その内容を職員間で相談し、ケアに活かすように努めている。	利用者の思いは日々の会話から吸い上げ、職員間で共有している。食に関する要望が多い。趣味の継続や家事がやりがいになるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前のアセスメントや契約時にご家族に経歴書・趣味・特技・嗜好等を記入して頂き、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、介護日誌に個々の様子等を記入し、現状の把握に努めている。また、重要な情報については、申し送りノートに記入し、職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族にお話しを伺い、その内容を踏まえて、ケアマネジャー・看護師・介護士でカンファレンスを開催し、介護計画を作成している。モニタリングは、定期的に行っている。	利用者・家族から要望等を聞き、ケアマネジャーや看護師、職員でカンファレンスを開催し、利用者のニーズとケアのあり方について話し合っってプランを作成している。作成後は家族に説明し、同意を得ている。モニタリングから評価に繋げ、現況に即したプランを作成している。個別記録には目標達成に向けたケアの実施・結果・利用者の様子と看護処置が記録されていた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中、夜間の様子について個別で記録している。また、介護日誌にも記入し、より重要な情報については、申し送りにノートに記入し、職員間で共有している。介護計画のケアの実施・結果についても個別で記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族からの希望に対応できるよう法人内グループとの連携体制をとっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度は、新型コロナウイルス感染予防対策として、ボランティアの受け入れを控えている。地域の方や支援の会からは、ボランティアの再開時期の問い合わせも多く、定期的に連絡し、連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医を伺い、ご本人とご家族の意向を確認している。協力医療機関の月2回の訪問診療を行っている。	協力医療機関からの月2回の往診と半年毎の健康診断で体調管理に努めている。変化があった場合は看護師が医師・家族に連絡し、結果を記録に残している。看護師がバイタルチェック・体重・排便チェックで健康管理と処置を行っている。家族付き添い受診は報告を受けて記録に残している。作業療法士・訪問歯科・歯科衛生士・摂食・嚥下障害看護認定士の支援がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、看護師が勤務し、バイタル測定や処置等の健康管理を行っている。訪問診療時には、医師に診察に必要な情報を提供している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、すぐに看護サマリーを提出し、入院中も定期的に病院相談員に連絡し、ご本人の状態等の情報収集している。退院相談の連絡があった時は、すぐに病状調査を行っている。看護・介護と情報共有し、安心して退院して頂けるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期について、ご本人とご家族の意向をお聞きし、看取りの方針について説明し、同意書を頂いている。入居後、看取り時になった時は、看取りカンファレンスを開催し、看護師、介護士、ケアマネを含む事業所で支援している。	契約時に重度化・終末期指針を説明し、同意書を取り交わしている。看取りの希望が出た場合は重篤前に医師から説明してもらい、今後の方針を決め、ターミナル期に沿ったケアの提供に看護師をはじめ、全職員で取り組んでいる。発熱や事故、看取り体制になった場合は、看護師がオンコール対応してくれるので職員の不安も少ない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・事故発生時の対応マニュアルを作成してある。定期的に勉強会などで確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に施設内での避難訓練を実施している。区長、民生委員、支援の会への連絡し、協力をお願いしている。	災害委員が主となり年2回の訓練を立案。併設施設と合同訓練、事業所独自で実施し、利用者が安全に避難できる方法を全職員が身につけている。民生委員・区長・支援の会への協力依頼を行っている。小坂地域は停電が多く、停電の時は区長が声をかけてくれるので安心である。災害時は地域住民の受け入れも可能で、お互い様の間柄が出来上がっている。災害別マニュアル・備蓄品・緊急持ち出し用品は整備している。福祉避難場所は法人内の関連施設になる。	施設長代行が変更になってからは、コロナ禍であることもあり、地域住民合同の訓練が実施されていない。感染状況を見ながら、万が一に備え、合同訓練を実施し、協力依頼内容の構築を図ることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人内にハートフル(接遇)委員会が設置されている。毎月接遇の取り組み目標があり、全職員で取り組んでいる。常に失礼が無いよう言葉遣い等を注意して接している。	情報開示に向けた同意書を取り交わし、個人情報保護に努めている。ハートフル委員会が設置され、目標(12月は身だしなみを見直しましょう)に向けて取り組んでいる。ハートフル目標は職員用トイレのドア内側に掲示されている。利用者を尊重し、ケア提供時や声掛け時にプライバシーを損ねないよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活、人間関係、レクリエーション等でご本人のご希望、思いを伺っている。自己決定できるように分かりやすい言葉で説明している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居時にご本人とご家族から趣味など生活歴をお聞きして参考にしたり、日常の会話等から楽しみや希望を伺い活動を行っている。また、お一人の時間も大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えの準備もできるだけご本人と一緒にいき、好きな衣類を選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時に嗜好やアレルギー等を確認し提供している。入居後も体調や摂取状況を見ながら食事形態の変更等を行っている。	併設事業所と一括注文した調理済みの総菜が冷凍で届き、厨房で湯煎して配膳している。ご飯とみそ汁はホームで作っている。行事食も提供。食事時には音楽を流す。月に1度の給食検討会があり、利用者の要望を取り入れ、食事の楽しみに繋げている。糖分・塩分制限のある利用者にはみそ汁や果物等で工夫している。コロナ感染予防のため職員は別に食事を摂っている。食事量・水分量(数種類の飲み物を用意)を把握し、体調維持に努めている。月1回の体重増減確認と食後の口腔ケアを実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は、毎回チェック表に記入して把握している。あまり食べれていない時は、好きな物や飲み物を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員にお声かけやご案内し、洗面所で歯磨きを行っている。磨きづらい箇所は、職員が介助している。義歯の調整等必要に応じて訪問歯科や歯科衛生士に診てもらうなど対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使い、一人ひとりの排泄パターンや尿量等を確認し、トイレへのお声かけ、誘導を行っている。行きたい時に声かけできるよう変化など日頃からの様子を把握している。	排泄チェック表・パターン・様子・表情から声替えを行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援に努めている。おむつ対応の方も昼間はリハビリでトイレに誘導する。夜間ポータブル使用者にはセンサーマットを使用して、見守り支援をする。排便の有無を確認し、便秘には水分摂取・センナ茶・腹部マッサージ・運動等で対策をとっているが、看護師のアドバイスをもらう時もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排泄チェック表を使い排便の有無を確認している。便秘対策として、水分を多く摂って頂いたり、センナ茶を提供したり、看護師に相談して下剤等で調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や回数については、ご本人に希望を伺い対応している。入りたくない時は、次の日にお声かけし入って頂く等の対応をしている。	利用者の希望に応じた入浴支援を実施している。拒否があった場合は臨機応変に対応している。しょうぶ湯・ゆず湯・入浴剤で気持ちよく入る工夫をしている。利用者の状態に応じて系列の小規模多機能施設の機械浴を利用するときもある。皮膚感染予防対策は実施している。着替えは職員が揃えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、眠れない利用者様には、傾聴したり温かいお茶を提供したりして安心して頂けるように支援している。日中も体調や様子を見て臥床等の対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服時間別に服薬ケースで分け、管理している。服薬介助の時は、必ず職員2名で名前、日付、時間等を確認し、誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様に日常に行っている掃除、テーブル拭き、洗濯物干し、洗濯物たたみなどを行ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は、新型コロナウイルス感染予防対策として、不要不急の外出の自粛を継続している。桜や新緑の時期にドライブ等を開催し戸外に出ての気分転換の機会をつくっている。	コロナ禍の為、外出は自粛している。ドライブに行き、車窓から季節の移ろいを感じてもらう。以前のように地域イベントへの参加や保育園児との交流、季節ごとの外出支援の再開を待ち望む利用者の声がある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご希望により、ご家族よりお金をお預かりして、自動販売機等での買い物を手伝っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族やご友人へ手紙、ハガキ、郵便物等を出したいとの要望があれば対応している。また、電話の取り次ぎを行うこともある。携帯電話も持っている方は、自由に使用して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆっくりお食事して頂けるように、音楽を流して、落ち着いた雰囲気でご召し上がって頂いている。利用者様と一緒に季節にあった作品を作成し、展示したりしている。	施設玄関周りのパンジーやホールに飾ったちりめん布の人形、風景絵や刺繍の飾り物は、訪問者を温かく迎え入れてくれる。リビングにはソファや畳コーナーがあり、自由に好みの場所で過ごしている。季節の飾り物やカレンダー、見やすい掛け時計で見当識に配慮している。5S活動を実施し、今まで以上に清潔保持に努めている。トイレの表示は分かりやすい。洗面台の高さは車いすに座った状態で使えるようになっている。 *感染予防の為、リビングやトイレ、お風呂場や居室は事前に写真を撮ってもらい、確認した。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂に、ソファや畳を置き、普段の座席以外にひとりで寛げる空間を設けている。また、気の合ったご利用者同士で会話されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ自宅と同じ空間で過ごして頂けるように使い慣れた家具や写真、愛用品を配置するようにしている。	居室入り口に名前・写真・お花や飾り物を掲示して混乱防止に努めている。ベッドは事業所が提供。使い慣れたチェスト・テーブル・椅子・衣装ケース等を動線と安全面に配慮して設置している。家族の写真や愛用品・塗り絵・一筆箋・賞状等を飾り、居心地よく過ごせる居室となっている。居室・洗面台の掃除は職員が行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は、段差がなくバリアフリーになっていて、車椅子の方でも使いやすくなっている。また、洗面台の高さも座った状態で使いやすいようになっている。		

(別紙4(2))

事業所名 : 牛久コスモス園

目標達成計画

作成年月日 : 2023年2月10日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	管理者が変更になってからは、コロナ禍でもあることもあり、地域住民合同の訓練が実施されていない。感染状況を見ながら、万が一に備え、合同訓練を実施し、協力依頼内容の構築を図りたい。	・地域の方との避難訓練の企画・実施	・地域の方に参加して頂けるよう避難訓練を企画し、運営推進会議や地域の会議等を利用して、説明・参加依頼し実施をする。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。